

だい ぶ かだい  
第5部 課題

だい かい  
第17回

まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール

ぜんこくたいかい  
全国大会

か だい  
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん  
第5部 和文A 小学生高学年

かんりょうく  
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん  
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

1. 競技委員の指示があるまで、この用紙に手を触れないでください。
2. 競技委員の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。  
(文字数2,400字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

まいにち にゅうりょく いんりょう ぶんしょう げんぶん と こ  
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでい  
るため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルど  
おりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省


もんぶかがくしょう  
文部科学省



こうせいろうどうしょう  
厚生労働省

けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか


1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。



※  の箇所で行 (Enter) してください。

みず なが  
水に流す 


それまでの争あらそいごとやうらみなどを、すべてなかったことにする。   
すべてを水みずに流ながして、伸直なかなおりをする。 





むし し  
虫が知らせる 


何なにかが起おこりそうだという予感よかんがする。   
虫むしが知らせたのか、早はやく引ひき上げたので雨あめにあわずにすんだ。 





いっしょくそくはつ 


激はげしく対立たいりつしていて、ちょっとしたきっかけあらそで争あらそいになる危険きけんがある  
ようす。   
二人ふたりはいっしょくそくはつの危険きけんな状態じょうたいにある。 





たなからぼたもち 


思おもいがけない幸運こううんがころげこむこと。   
たなからぼたもちで、友人ゆうじんから「いらないから」とパソコンをもらう  
。 





こころ  
心がはずむ 


喜よろこびや期待きたいで心こころがうきうきする。   
もうすぐ夏休なつやすみだと思おもうと心こころがはずむ。 





わ か  
輪を掛ける 


程ていど度をさら*に*いっそう大おおきくする。実じっさい際おおより大おおげさに言いう。   
弟おとうとは、兄あにに輪わを掛かけたきかんぼうだ。 





ひょうざん いっかく  
氷山の一角 

ものごとの一いち部ぶ分ぶんだけが外そとに現あらわれていて大だい部ぶ分ぶんはかくれたままである  
こと。   
この事じ件けんは、ほんの氷ひょうざん山いっかくの一角いっかくにすぎない。 



ゆうゆう じ てき  
悠々自適 

俗ぞく世せ間けんからはなれて、自じ分ぶんの好すきなよう*に*楽たのしんで、静しずかに毎まい日にちを過す  
ごすこと。   
好すきな絵えをえがいて悠ゆう々ゆう自じ適てきに暮くらす。 



秋あきの日はつるべ落おとし

秋あきの日は、つるべを落おとすように、あつという間まに暮くれるものだ。

秋あきの日はつるべ落おとしだね、外そとはもうまっ暗くらだ。



寝食しんしょくを忘わすれる

非ひ常じょうに熱心ねっしんにものごとをする。

おもしろい本ほんを讀みふけり寝食しんしょくを忘わすれる。



柳やなぎに雪折ゆきおれ無なし

堅かたいものより、柔やわらかなものの方が、かえって厳きびしい試練しれんに耐たえら  
れる。

頑丈がんじょうなのは案外あんがいもろいのよ、柳やなぎに雪折ゆきおれ無なしさ。



骨折ほねおり損そんのくたびれもうけ

苦勞くろうばかりして得えるところがないこと。苦勞くろうしがいのないこと。むだ  
ぼね。

苦勞くろうして準備じゅんびしたのに、雨天中止うてんちゅうしで骨折ほねおり損そんのくたびれもうけに終おわ  
った。



耳みみが痛いたい

弱点じゅくてんや失敗しっぱいを言いわれて聞きくのがつらい。

君きみには耳みみが痛いたい話はなしになるが聞きいてくれ。



耳みみを疑うたがう

信しんじられないような話はなしを聞きかされて、聞ききちがいではないかと思う。

作品さくひんが一等いっとうに入選にゅうせんと聞きいて耳みみを疑うたがう。



なみだをのむ

くやしい気持きもちちを、じつとがまんする。残念ざんねんな思おもいをこらえる。

けがのため試合しあいに出でられずなみだをのむ。



水みずを打うったよう

多た数すうの人が静しずまりかえっているようす。

教室きょうしつが水みずを打うったようにシーンとなる。



はたけちが  
畑違い

自分が専門としている仕事や学問と違うこと。

本業は医者だが、畑違いの小説家としてのほうが有名だ。



よ  
読みが深い

先の先まで深く見通している。多方面から深く考えている。

雨天の準備までしてくるとは、さすが読みが深い。



に  
二階から目薬

ものごとが思うようにならないで、もどかしいこと。また、やり方に無理があって、効果がないこと。

それとなく言ったぐらいじゃ二階から目薬で効き目がない。



ふ  
踏んだり蹴ったり

重ね重ねさんざんな目にあうこと。

転んでけがをしただけでなく、めがねも割ってしまい、踏んだり蹴ったりだ。



ぜんだい みもん  
前代未聞

今まで一度も聞いたことがないこと。非常にめずらしいこと。

前代未聞のちん事件。



ひのきぶたい  
ひのき舞台

自分の実力を人に示すことができる晴れの場所。

夢はオリンピックのひのき舞台に立つこと。



いいきになる

得意になって、うぬぼれる。

優勝したからといっていい気になるな。



あい  
相づちを打つ

話を聞きながら、「うんうん」「なるほど」などと、同意したり、うなずいたりして相手の話の調子を合わせる。

友達の話に「ほんとだね」と相づちを打つ。



脇目も振らず

一つのことを、一心にするようす。一つのこと集中するようす。

脇目も振らずゴールめざしてひたすら走る。

↓

言うまでもない

わざわざ口に出して言わなくても、わかっている。当然のことだ。

どの命もかけがえのないことは言うまでもない。

↓

五十歩百歩

ちがいがあるようで、本当はあまりちがいのないこと。ほとんど同じ

↓

二人の意見のちがいは五十歩百歩だ。

↓

手取り足取り

親切に細かく教えこむこと。

泳げない初心者に手取り足取りで教える。

↓

雨後の竹の子

同じようなものが、次から次へと、続いて出てくること。

新商品が雨後の竹の子のように売られる。

↓

魚心あれば水心

相手がこちらに好意を持つならば、こちらも相手に好意を持つように

なる。

好意を持って接すれば、魚心あれば水心で、相手も好意を持ってくれ

るものだ。

↓

揚げ足を取る

相手の言いまちがいを取り上げて、責めたり困らせたりする。

言いまちがいをとらえて揚げ足を取る。

↓

待てば海路の日和あり

今はうまくいなくても、じっと待っていれば、必ずいい時が来る。

あせるな、あせるな、待てば海路の日和あり。

↓

舌鼓を打つ

おいしくて舌を鳴らしながら食べる。↵

名物のウナギ弁当に舌鼓を打つ。↵

胸に刻む↵

しっかり心にとどめる。心に刻む。↵

恩師の言葉を胸に刻んで卒業する。↵

寝耳に水↵

思いがけない出来事や知らせにおどろくこと。↵

自分の作品が特選になるとは寝耳に水だ。↵

棒に振る↵

だめにしてしまう。今までの苦心をおだにする。せっかくのチャンス  
を失う。↵

急病のため、修学旅行を棒に振る。↵

文明開化↵

西洋の文化を積極的にとり入れ、世の中が急速に進歩すること。↵

文明開化で、ちょんまげはなくなった。↵

二の句が継げない↵

あきれたりおどろいたりして、次のことばが出てこない。↵

相手の剣幕に気が動転して二の句が継げない。↵

似ても似つかない↵

少しも似ていない。まるでちがう。↵

やさしい顔立ちから似ても似つかない乱暴なことばが飛び出した。↵

漁夫の利↵

両者が争っているすきに、ほかのものが苦労もなく利益を横取りする  
こと。↵

両者が争っている間に漁夫の利を得る。